

関係各位

兵庫県病虫害防除所長

令和6年度病虫害発生予報第4号を發表します。

令和6年度病虫害発生予報第4号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
水稻	いもち病（穂いもち）	平年並	平年並（葉いもち）
	紋枯病	平年並	平年並
	<b>セジロウンカ</b>	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
	<b>トビイロウンカ</b>	<b>やや多</b>	<b>発生時期 早い</b>
	<b>ヒメビウンカ</b>	<b>やや多</b>	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	平年並
	<b>斑点米カメムシ類</b>	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
	イネツトムシ	平年並	平年並
	<b>コブノメイガ</b>	<b>やや多</b>	平年並
大豆	紫斑病	平年並	平年並
	べと病	平年並	平年並
	<b>ハダニ類</b>	<b>やや多</b>	平年並
	<b>吸実性カメムシ類</b>	<b>やや多</b>	平年並
なし	黒斑病	平年並	平年並
野菜等共通	ヨトウガ	平年並	平年並
	<b>ハスモンヨトウ</b>	<b>やや多</b>	平年並
	シロイチモジヨトウ	平年並	平年並
	<b>オオタバコガ</b>	<b>やや多</b>	平年並
	ハイマダラノメイガ	平年並	やや少
果樹等共通	<b>果樹カメムシ類</b>	<b>多</b>	<b>多</b>

**太文字の病虫害**:向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病虫害を示す。

**\* 気象の概況**

近畿地方 1か月予報  
(8月3日から9月2日までの天候見通し)

令和6年8月1日  
大阪管区气象台 発表

**<予想される向こう1か月の天候>**

近畿地方 1か月予報 (08/03~09/02)		
2024年08月01日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	向こう1か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 08/03~09/02	天候	近畿日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、近畿日本海側で多い確率50%です。
1週目 08/03~08/09	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 08/10~08/16	気温	2週目は、高い確率80%です。
3~4週目 08/17~08/30	気温	3~4週目は、高い確率70%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 08/03~09/02	
		1週目 08/03~08/09	
		2週目 08/10~08/16	
		3~4週目 08/17~08/30	
降水量	近畿太平洋側	向こう1か月 08/03~09/02	
	近畿日本海側	向こう1か月 08/03~09/02	
日照時間	近畿太平洋側	向こう1か月 08/03~09/02	
	近畿日本海側	向こう1か月 08/03~09/02	

低い(少ない) 平年並 高い(多い)

## \* 発生概況及び防除対策上の留意点

根拠中の記号

- (+) : 発生量を多くする要因
- (-) : 発生量を少なくする要因
- (±) : 発生量が平年並になる要因

## 水稻

### 1 【いもち病（穂いもち）】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 葉いもちは平年並（±）  
気象予報 気温は高い（±）  
降水量は太平洋側は多く、日本海側は平年並～少ない（±）

### 2 【紋枯病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
気象予報 気温は高い（+）  
降水量は太平洋側は多く、日本海側は平年並～少ない（±）

### 3 【セジロウンカ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 **やや多**（+）  
気象予報 気温は高い（+）  
その他 生育初期の稲を好み、出穂期以降はあまり増殖しない（-）

#### (3) 防除上の留意点

ア 本種は海外飛来性であり、梅雨前線に伴う気流によって中国大陸から飛来する。ほ場での発生状況をよく観察する。葉面上にすす症状がみられたら薬剤防除を行う。

イ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

### 4 【トビイロウンカ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 **予察灯への誘殺、生産ほ場での確認が早い**（+）  
7月1日に予察灯（加西市）で誘殺が認められた  
7月23日には場で確認された  
気象予報 気温は高い（+）

#### (3) 防除上の留意点

ア 本種は海外飛来性害虫であり、“坪枯れ”を起こす重要害虫である。増殖型の短翅型雌と幼虫は株元に生息している。ほ場での発生状況をよく観察して発生を認めれば早期防除に努める。農業技術センター（加西市）に設置されている予察灯への誘殺がここ10年で最も早く認められたこと、巡回調査で生産ほ場で確認されたことから、普通期栽培のみならず、早期栽培においても発生状況

を観察し、早期防除に努める。

イ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

## 5 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**  
(2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
          気象予報 気温は高い（+）

### (3) 防除上の留意点

ア 本種はイネ縞葉枯病を媒介する。現在、発病株が目立つほ場ではウイルス保毒率が増加し、翌年の多発につながるおそれがあるため、今後の基幹防除や収穫後の耕うん等で、本種の密度を下げておくことが重要である。

イ 本田におけるイネ縞葉枯病の初期発病株（葉色が薄くなり巻いて垂れ下がる「ゆうれい症状」を表す）は、後期発病（出穂異常）の増加につながるので、速やかに抜き取る。

ウ 今年度の第1世代虫（コムギ採集個体）のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、一部地域では保毒虫率が平均（1.4%）を大幅に超えた5%以上の値を示している地域もある。各地域の保毒虫率については兵庫県病虫害防除所HPを参考とする。

エ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

## 6 【ツマグロヨコバイ】

- (1) 予想：発生量 平年並  
(2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
          気象予報 気温は高い（+）

## 7 【斑点米カメムシ類】

- (1) 予想：発生量 **やや多**  
(2) 根拠：発生現況 **やや多、イネカメムシとミナミアオカメムシは多**（+）  
          気象予報 気温は高い（+）

### (3) 防除上の留意点

ア 出穂期までに生息場所であるほ場周辺（畦畔等）の除草を行い生息密度の低下を図る。ただし出穂直前と出穂後の畦畔除草は本田へのカメムシ類の侵入を助長するので避ける。

イ 大型斑点米カメムシ類である、イネカメムシとミナミアオカメムシは予察灯への誘殺が多くなっている。イネカメムシについては、周辺より出穂期が早いほ場では、集中して被害を受けやすい。また、そのようなほ場の隣接ほ場では出穂が遅い場合も被害を受けやすいため、適切な防除を行う。さらにイネカメムシは出穂直後から穂を加害して不稔穂を発生させるなど収量への影響が大きいため、ほ場内に発生が見られる場合は薬剤防除を検討する。

ウ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

エ 防除にあたっては、令和6年度病虫害発生予察注意報第2号（令和6年8月2日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1146>）を参考とする。

## 8 【イネツトムシ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（発生見られず）（－）  
気象予報 気温は高い（＋）

## 9 【コブノメイガ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
気象予報 気温は高い（＋）
- (3) 防除上の留意点
  - ア 窒素過剰な場合や多収品種、飼料用品種などは葉色が濃く、被害を受けやすい。
  - イ 止葉の食害、カスリ状の食害痕に注意する。発生程度に応じて出穂期前後に薬剤散布を行う。
  - ウ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

## 大豆

### 1 【紫斑病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（発生見られず）（－）  
気象予報 気温は高い（＋）  
降水量は太平洋側は多く、日本海側は平年並～少ない（±）

### 2 【べと病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
気象予報 気温は高い（±）  
降水量は太平洋側は多く、日本海側は平年並～少ない（±）

### 3 【ハダニ類】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
気象予報 気温は高い（＋）  
降水量は太平洋側は多く、日本海側は平年並～少ない（±）
- (3) 防除上の留意点
  - ア 薬剤散布を行う場合は、薬液がハダニ類の生息している葉の裏に十分かかるように行うこと。
  - イ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤を

ローテーション散布する。

#### 4 【吸実性カメムシ類】（ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ等）

(1) 予想：発生量 **やや多**

(2) 根拠：発生現況 平年並（±）

気象予報 気温は高い（+）

(3) 防除上の留意点

ア 着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、卵からふ化した幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続けるため、薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。

イ 薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

なし（青なし）

#### 1 【黒斑病】

(1) 予想：発生量 平年並

(2) 根拠：発生現況 平年並（±）

気象予報 気温は高い（－）

降水量は日本海側は平年並～少ない（±）

(3) その他

次年度産の防除を考慮して、以下の点に留意する。

ア 農薬散布時は、薬液が十分かかるように留意する。

イ 園地を定期的に見回り、落下した果実・病葉は園外に持ち出し処分する。

ウ 薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。また、耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。

エ 防除にあたっては、令和6年度病害虫発生予察防除情報第4号（令和6年6月10日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1072>）を参考とする。

野菜等共通

#### 1 【ヨトウガ】

(1) 予想：発生量 平年並

(2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±）

気象予報 気温は高い（+）

#### 2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予想：発生量 **やや多**

(2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±）

気象予報 気温は高い（+）

(3) 防除上の留意点

ア 本種の幼虫は、ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

### 3 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予想：発生量 平年並

(2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±）  
気象予報 気温は高い（+）

### 4 【オオタバコガ】

(1) 予想：発生量 **やや多**

(2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±、一部**多**）  
気象予報 気温は高い（+）

(3) 防除上の留意点

ア 本種の加害植物は、ピーマン、ナス、キャベツをはじめ多くの野菜類のほか、花き類など広い範囲に及ぶ。

イ 果実や花蕾に穿入した幼虫及び中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

ウ 成虫の産卵、飛来防止による防除手法として、防虫ネット、黄色灯、性フェロモン製剤がある。

エ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

### 5 【ハイマダラノメイガ】

(1) 予想：発生量 平年並

(2) 根拠：発生現況 誘致植物\*（クレオメ）での発生量はやや少（-）  
気象予報 気温は高い（+）

\*対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調査するために用いられる。

## 果樹等共通

### 1 【果樹カメムシ類】

(1) 予想：発生量 **多**

(2) 根拠：発生現況 予察灯、フェロモントラップへの誘殺数は**多**（+）  
気象予報 気温は高い（+）

その他 チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は発生が多い年に該当する。越冬世代の飛来は、例年であれば6月に減少傾向がみられるが、

フェロモントラップへの誘殺数は多い状態が続いているため、果樹園への飛来も続く可能性がある。

(3) 防除上の留意点

- ア 定期的に園を見回り、飛来状況の把握に努める。
- イ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。
- ウ 令和6年度病虫害発生予察注意報第1号（令和6年5月2日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1072>）、同防除情報 第3号（令和6年5月28日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1084>）及び同防除情報第5号（令和6年7月12日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1129>）を参考とする。

防除上の留意点に記載している内容のほか、兵庫県総合防除計画を参照してください。

\*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

\*BLASTAM情報は以下のURLに掲載

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/blastam>

\*病虫害・雑草防除指導指針 農薬の検索は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/noyakusearch/hyogo>

\*病虫害・雑草防除指導指針 参考資料は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

\*この情報は、兵庫県病虫害防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

兵庫県病虫害防除所 0790-47-1222

2022年3月1日より「兵庫県病虫害防除所」X(旧Twitter)を開設しています。発生予察情報など病虫害に関する情報をいち早く提供しますので、是非フォローお願いします。

Xアカウント ([https://twitter.com/hyogo\\_boujoshou](https://twitter.com/hyogo_boujoshou))

